



時を越え戦国の地へ

官軍衛の中流の佐用「三城」を巡る

黒田官兵衛 (福岡市立美術館所蔵)
佐用町観光協会

佐用「三城」へのアクセス

- 上月城跡**
 - JR姫新線・上月駅下車、国道179号を南へ0.8km。(登山口まで)
 - 中国自動車道・佐用ICから約9km。(登山口まで)
- 福原(佐用)城跡**
 - JR/智頭急行・佐用駅下車、国道179号を南へ1.5km。
 - 中国自動車道・佐用ICから約4.2km。
- 利神城跡(宿場町平福)**
 - 智頭急行・平福駅下車。
 - 中国自動車道・佐用ICから約3km。
 - 鳥取自動車道(上り線)平福ICから約1.5km。



■表紙の写真「飛龍の滝」
落差 20m、佐用町随一の規模を誇る飛龍の滝。
NHK大河ドラマ「軍師官兵衛」のタイトルバックのロケ地になりました。
●智頭急行・久崎駅から約4km、中国自動車道・佐用ICから約16km。



主要位置周辺マップ



おさよん
佐用町観光協会
〒679-5380 兵庫県佐用郡佐用町佐用 2611 番地 1
Tel.0790-82-2521 (代)
http://www.town.sayo.lg.jp
E-mail syokokanko@town.sayo.lg.jp
■協力 佐用町教育委員会
2020.11.20000

上戸歴史資料館
戦国時代、織田・毛利の激しい戦いの地となった上月城の歴史を展示しています。また、明徳の中秋から上戸城の歴史を展示しています。市内の城跡の歴史や、城跡の歴史を展示しています。市内の城跡の歴史や、城跡の歴史を展示しています。市内の城跡の歴史や、城跡の歴史を展示しています。

ふれあいの里上月月産物直売所
JR 姫新線上月駅管内にある。月産物の販売・情報提供・交流の場です。また、資料館に隣接して、資料館の歴史や、城跡の歴史を展示しています。

母ヶ丘公園
「クサエ」JR 姫新線上月駅から約 3km、智頭急行久崎駅から約 1km、中国自動車道佐用ICから約 11km
「クサエ」JR 姫新線上月駅から約 3km、智頭急行久崎駅から約 1km、中国自動車道佐用ICから約 11km
「クサエ」JR 姫新線上月駅から約 3km、智頭急行久崎駅から約 1km、中国自動車道佐用ICから約 11km

上戸城
上戸城は、戦国時代の重要拠点の一つとして、毛利氏と織田氏の間で争われていた。その歴史は、戦国時代の激しい戦いの地となった上月城の歴史を展示しています。また、明徳の中秋から上戸城の歴史を展示しています。市内の城跡の歴史や、城跡の歴史を展示しています。

野々の道
野々の道は、戦国時代の重要な交通ルートであり、毛利氏と織田氏の間で争われていた。その歴史は、戦国時代の激しい戦いの地となった上月城の歴史を展示しています。また、明徳の中秋から上戸城の歴史を展示しています。市内の城跡の歴史や、城跡の歴史を展示しています。

田邊
田邊は、戦国時代の重要な拠点の一つとして、毛利氏と織田氏の間で争われていた。その歴史は、戦国時代の激しい戦いの地となった上月城の歴史を展示しています。また、明徳の中秋から上戸城の歴史を展示しています。市内の城跡の歴史や、城跡の歴史を展示しています。

上月城跡散策マップ (1/3,000)
上月城跡の散策ルートを示すマップ。各城跡の位置、交通ルート、および見どころを詳細に示しています。

利神城跡
利神城跡は、戦国時代の重要な拠点の一つとして、毛利氏と織田氏の間で争われていた。その歴史は、戦国時代の激しい戦いの地となった上月城の歴史を展示しています。また、明徳の中秋から上戸城の歴史を展示しています。市内の城跡の歴史や、城跡の歴史を展示しています。

福原(佐用)城跡
福原(佐用)城跡は、戦国時代の重要な拠点の一つとして、毛利氏と織田氏の間で争われていた。その歴史は、戦国時代の激しい戦いの地となった上月城の歴史を展示しています。また、明徳の中秋から上戸城の歴史を展示しています。市内の城跡の歴史や、城跡の歴史を展示しています。

上月城跡
上月城跡は、戦国時代の重要な拠点の一つとして、毛利氏と織田氏の間で争われていた。その歴史は、戦国時代の激しい戦いの地となった上月城の歴史を展示しています。また、明徳の中秋から上戸城の歴史を展示しています。市内の城跡の歴史や、城跡の歴史を展示しています。

目高の薬地
目高の薬地は、戦国時代の重要な拠点の一つとして、毛利氏と織田氏の間で争われていた。その歴史は、戦国時代の激しい戦いの地となった上月城の歴史を展示しています。また、明徳の中秋から上戸城の歴史を展示しています。市内の城跡の歴史や、城跡の歴史を展示しています。

林鶴丸【マノチ】
林鶴丸【マノチ】は、戦国時代の重要な拠点の一つとして、毛利氏と織田氏の間で争われていた。その歴史は、戦国時代の激しい戦いの地となった上月城の歴史を展示しています。また、明徳の中秋から上戸城の歴史を展示しています。市内の城跡の歴史や、城跡の歴史を展示しています。

キタカタの太鼓
キタカタの太鼓は、戦国時代の重要な拠点の一つとして、毛利氏と織田氏の間で争われていた。その歴史は、戦国時代の激しい戦いの地となった上月城の歴史を展示しています。また、明徳の中秋から上戸城の歴史を展示しています。市内の城跡の歴史や、城跡の歴史を展示しています。

尾根の分岐・道を確認！
尾根の分岐・道を確認！は、戦国時代の重要な拠点の一つとして、毛利氏と織田氏の間で争われていた。その歴史は、戦国時代の激しい戦いの地となった上月城の歴史を展示しています。また、明徳の中秋から上戸城の歴史を展示しています。市内の城跡の歴史や、城跡の歴史を展示しています。

戦国時代の岩跡か
戦国時代の岩跡かは、戦国時代の重要な拠点の一つとして、毛利氏と織田氏の間で争われていた。その歴史は、戦国時代の激しい戦いの地となった上月城の歴史を展示しています。また、明徳の中秋から上戸城の歴史を展示しています。市内の城跡の歴史や、城跡の歴史を展示しています。

土橋状の通路
土橋状の通路は、戦国時代の重要な拠点の一つとして、毛利氏と織田氏の間で争われていた。その歴史は、戦国時代の激しい戦いの地となった上月城の歴史を展示しています。また、明徳の中秋から上戸城の歴史を展示しています。市内の城跡の歴史や、城跡の歴史を展示しています。

岩跡
岩跡は、戦国時代の重要な拠点の一つとして、毛利氏と織田氏の間で争われていた。その歴史は、戦国時代の激しい戦いの地となった上月城の歴史を展示しています。また、明徳の中秋から上戸城の歴史を展示しています。市内の城跡の歴史や、城跡の歴史を展示しています。

目高集落
目高集落は、戦国時代の重要な拠点の一つとして、毛利氏と織田氏の間で争われていた。その歴史は、戦国時代の激しい戦いの地となった上月城の歴史を展示しています。また、明徳の中秋から上戸城の歴史を展示しています。市内の城跡の歴史や、城跡の歴史を展示しています。

核神社
核神社は、戦国時代の重要な拠点の一つとして、毛利氏と織田氏の間で争われていた。その歴史は、戦国時代の激しい戦いの地となった上月城の歴史を展示しています。また、明徳の中秋から上戸城の歴史を展示しています。市内の城跡の歴史や、城跡の歴史を展示しています。

このあたり
このあたりは、戦国時代の重要な拠点の一つとして、毛利氏と織田氏の間で争われていた。その歴史は、戦国時代の激しい戦いの地となった上月城の歴史を展示しています。また、明徳の中秋から上戸城の歴史を展示しています。市内の城跡の歴史や、城跡の歴史を展示しています。

林道分岐への道
林道分岐への道は、戦国時代の重要な拠点の一つとして、毛利氏と織田氏の間で争われていた。その歴史は、戦国時代の激しい戦いの地となった上月城の歴史を展示しています。また、明徳の中秋から上戸城の歴史を展示しています。市内の城跡の歴史や、城跡の歴史を展示しています。

尾根の分岐・道を確認！
尾根の分岐・道を確認！は、戦国時代の重要な拠点の一つとして、毛利氏と織田氏の間で争われていた。その歴史は、戦国時代の激しい戦いの地となった上月城の歴史を展示しています。また、明徳の中秋から上戸城の歴史を展示しています。市内の城跡の歴史や、城跡の歴史を展示しています。

山道との分かれ道
山道との分かれ道は、戦国時代の重要な拠点の一つとして、毛利氏と織田氏の間で争われていた。その歴史は、戦国時代の激しい戦いの地となった上月城の歴史を展示しています。また、明徳の中秋から上戸城の歴史を展示しています。市内の城跡の歴史や、城跡の歴史を展示しています。

資料館
資料館は、戦国時代の重要な拠点の一つとして、毛利氏と織田氏の間で争われていた。その歴史は、戦国時代の激しい戦いの地となった上月城の歴史を展示しています。また、明徳の中秋から上戸城の歴史を展示しています。市内の城跡の歴史や、城跡の歴史を展示しています。

上月城
上月城は、戦国時代の重要な拠点の一つとして、毛利氏と織田氏の間で争われていた。その歴史は、戦国時代の激しい戦いの地となった上月城の歴史を展示しています。また、明徳の中秋から上戸城の歴史を展示しています。市内の城跡の歴史や、城跡の歴史を展示しています。

福原城(佐用城)

ふくはらじょう
(さよじょう)

黒田官兵衛・竹中半兵衛に落とされた城

JR・智頭急行佐用駅を降りて北側の佐用川を渡り南へ約1.5km、大坪橋付近の小路を西側に進むと「福原(佐用)城跡」が見えてきます。上月城攻めの前哨戦として、黒田(小寺)官兵衛・竹中半兵衛等によって落とされた城です。

天正五(1577)年11月27日、佐用郡に攻め込んだ秀吉は官兵衛と半兵衛に福原城攻めを命じます。この戦いの様子は当時の記録がないので、後に書かれた書物でその歴史をたどってみます。

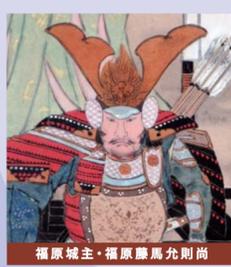
「播州佐用軍記」では、黒田・竹中隊は攻城に苦戦するものの、蜂須賀隊の加勢によって一挙に優勢となります。蜂須賀隊が勝手(からめて)から多くの鉄砲を打ち、城兵を分散。大手側から黒田隊が、城主を誘い出し、その隙に竹中隊が城を攻略したと記されています。

また、黒田家の記録「黒田家譜」には、官兵衛の計略、三方を囲み、後ろ一方を開けておく孫子の兵法「囲師必圍一(いしりつけつ)」によって落城させたと記されています。

当の秀吉は、手紙に「福原城から兵が出てきたので、半兵衛と官兵衛を派遣し、城下での戦いで数多くの城側の兵士を討ち、城主兄弟は平塚三郎兵衛が討ち取った。その後、残る人々をことごとく討ち果たした」と実に素っ気なく記しています。しかしこの戦では城兵と城内の者すべてが斬られるという凄惨な状況であったようです。



佐用の大イチョウ
(県指定天然記念物)
樹齢千年とも言われる県指定天然記念物の大イチョウ。秋になると黄金色に佐用の町を彩ります。



福原城主・福原藤馬丸則尚
(高雄山福園寺所蔵) 福原城主名は則尚のほか助就とする書もある。

城跡に残る社は、城主福原氏を祀っており、頭脳明晰だったと伝えられる城主にあやかって今でも参拝する人が多くあります。

社がある場所は「土塁」で土に延びています。社に向かっていると、一段下の平地は福原城の本丸跡です。図面をみると、この曲輪を中心にくっつかの平地地があるのがわかります。そして、左側には深い「堀切」があります。今は農道ですが、元は西側からの侵入を防ぐ大きな堀が築かれていた。ただ、現在のどかな風景からは多数の犠牲を出した戦いがあった場所に見えず、遺構だけが往時の面影を伝えています。

なお地元の一説では、城主は戦いで討ち取られたのではなく、近くの寺まで落ち延び、そこで自刃したといわれています。

その寺は高雄山福園寺で、この城から北西2kmの山腹にあります。境内の一角に古い宝篋印塔ほうきょういんとう)がひっそりと建っており、福原城主の胸塚といわれています。

ちよっと 寄り道

さよう名物「ホルモン焼きうどん」



佐用町独自の食文化で、今やすっかりご当地グルメとなったホルモン焼きうどん。鉄板で焼いたあつあつのホルモン焼きうどんを、各店舗特製のつけだれにつけて食べます。その味は、一度食べたらずみつきに。リピーターも多く、女性や子供にも人気です。佐用駅周辺、中国道佐用IC周辺を中心に多数店舗あります。※ホルモン焼きうどんが食べられるお店の情報を掲載したホルモン焼きうどんマップもあります。

《問合せ先》 佐用町商工会 0790-82-2218

しかコロッケ

佐用町商工会青年部が、しかを町の救世主にしようという取り組みの中で生まれた商品です。しか肉は低カロリーで高タンパク、さらに鉄分などのミネラルが大変豊富です。佐用の山中で季節の恵みを受けて成長しているしかは貴重な天然食材です。ぜひご賞味下さい。



《問合せ先》 佐用町商工会 0790-82-2218

利神城

りかんじょう

宿場町・平福「華の平福朝駆け」

JR佐用駅から智頭急行に乗り換えて平福駅を降りると、そこは「天原夜出て釜取越えて華の平福朝駆け」と里謡にも歌われるほど、江戸時代に因幡街道有数の宿場町として栄えた「平福」です。佐用川沿いに点在する土蔵や川原敷のほか、千本格子の家並みがその面影を残し、往時の風情をかもし出しています。

また、自然薯やこんにやくなど、地元特産の味を楽しめる道の駅「宿場町ひらふく」などがあり、年間を通じて多くの観光客が訪れます。

この宿場町を見下ろすように石垣の連なる山城が見えます。これが利神城跡です。

かつて三重の天守をもち、「雲突城」ともよばれた近世の利神城は、江戸時代に池田輝政の播磨52万石、北の支城として輝政の甥の由之が大改修した姿です。利神山上にそびえるその姿は因幡街道有数の偉容を誇ったことでしょう。

また、山のふもとには石垣や水堀を伴う御殿屋敷を構え、本格的な城であったことがわかります。

そもそも、利神城の歴史は中世までさかのぼりますが、築城者を含めて詳しいことはわかっていません。天正五(1577)年の羽柴秀吉の上月城攻めでは、唯一戦いから免れています。福原城と上月城が落城したとき、利神城主の別所氏はまず衛兵がなく、人質を出して秀吉に降伏します。その後の別所氏は消息が途絶えます。

これは別に、利神城主の別所氏を上月城の山中鹿介が攻め落としたりとも伝わっていますが、真偽は定かではありません。

これ以降、天正六年(1578)年に上月城を毛利氏が落としてからは、池田氏が領有するまで宇喜多氏が領していたとの説が有力です。

江戸時代に入り、平福は城下町から宿場町へと変容します。瓜生原家住宅や、川端風景、御殿屋敷跡、宮本武蔵初決闘の場、郷土館など、往時の面影を感じられる歴史スポットが町のあちこちに残っています。その他、明治21年創業、約130年以上の歴史をもつ河内屋旅館などがあります。

また、ボランティアグループ「佐用町平福観光ガイド協会」では、観光客に利神城や宿場町の歴史を語りながら史跡などを案内しています。

ガイド一人につき1回3,000円(ご利用には、7日前までに予約が必要です)TEL0790・83・2373 道の駅宿場町ひらふく。ぜひご利用ください。

※現在、利神城跡は石垣や登山道での崩落の危険性があるため、城跡までの登城は差し控えていただいています。

※平福や利神城に関する情報は、「利神城と平福のまちなみ」や「国指定史跡利神城跡(佐用町発行)」にくわしく掲載しています。町教育委員会や町立図書館、平福郷土館などで販売しています。

ちよっと 寄り道

道の駅 宿場町ひらふく



平福の川端風景をモチーフとした外観が特徴の道の駅。地元特産の素材を使用した食事のレストラン、ご当地B級グルメが味わえるフー

ドコーナーに加え、特産品コーナー、情報コーナーを併設しています。

さらに真正面には利神城跡、旧街道に入れば古い街並みや川端風景という好立地でもあります。平福巡りの拠点としてご利用ください。

平福郷土館



「道の駅宿場町ひらふく」から北東へしばらく行くと大きな提灯が目印の平福郷土館があります。

敷地内には五輪塔があり、江戸時代にはこの敷地は半屋跡だったと伝わります。建物は、おなじ平福にある瓜生原家の建築様式をモチーフにしています。

1階は宿場町平福の生活を伝える民具や佐用町内の発掘調査で見つかった出土品を展示しています。2階は利神城に関する展示。説明パネルによる展示解説のほか、瓦や土器などの出土品、利神城から出土したと伝わる鯉瓦なども展示されています。

《アクセス》 JR 姫新線佐用駅から約6km、智頭急行平福駅から約0.7km、中国自動車道佐用ICから約3km、鳥取自動車道(上り線)佐用平福ICから約1.5km
《問合せ先》 住所/佐用町平福594
電話/0790-83-2635(開館時のみ)
開館時間/9:00～16:00
開館日/土・日・祝日(年末年始は休館)
入館料/大人200円、子ども100円

